

もくじ

- ・ むしめ ひめぎみ  
虫愛ずる姫君

むしめ ひめぎみ  
虫愛ずる姫君

げんさく にほん むかしばなし  
原作： 日本のお話

イラスト： すずどん

へんしゅう  
編集： YellowBirdProject

<sup>きょう みやこ</sup> 京の都の、<sup>きぞく やしき ひとり</sup> とある貴族のお屋敷に、一人の  
<sup>ひめぎみ</sup> 姫君がいました。この<sup>ひめぎみ</sup> 姫君は、<sup>か</sup> とても<sup>もの</sup> 変わり者の<sup>むすめ</sup> 娘  
 として、<sup>ゆうめい</sup> 有名でした。というのも、この<sup>ひめぎみ</sup> 姫君は  
<sup>むし</sup> 『虫』が<sup>だいす</sup> 大好きだったのです。姫君は自分の<sup>ひめぎみ</sup> 部屋で、<sup>じぶん</sup> 自分  
<sup>へや</sup> の<sup>むし</sup> 虫を、<sup>い</sup> かごに入れて  
<sup>か</sup> 飼っていました。

<sup>やしき はたら じょかん</sup> お屋敷で働く女官たちは、<sup>むし</sup> みんな虫が<sup>にがて</sup> 苦手で、<sup>ひめぎみ</sup> 姫君  
<sup>へや</sup> の<sup>はい</sup> 部屋に入る<sup>とき</sup> 時は、<sup>むし</sup> いつも虫におびえていました。



5

ある日のこと、<sup>ひ</sup>姫君の<sup>りょうしん</sup>両親が、とてもこまった<sup>かお</sup>顔で  
い言いました。

「お前は、<sup>まえ</sup>ちょうちょのようにきれいなものより、  
<sup>あおむし</sup>青虫のように、<sup>きみ</sup>気味の<sup>わる</sup>悪いものばかりに<sup>むちゅう</sup>夢中になって  
いる。いったいなぜだ」

<sup>ちちおや</sup>父親の<sup>ことば</sup>言葉に、<sup>ひめぎみ</sup>姫君は<sup>こた</sup>こう答えました。

「<sup>とうさま</sup>お父様、<sup>せけん</sup>世間では、<sup>うつく</sup>うわべの美しいものだけが  
<sup>この</sup>好まれるけれども、<sup>わたくし</sup>私 はうわべよりも、そのものの  
<sup>なかみ</sup>中身の<sup>うつく</sup>美しさの方が、<sup>ほう</sup>大切だと思っております」

<sup>ひめぎみ</sup>姫君は<sup>じぶん</sup>自分の<sup>へや</sup>部屋から、<sup>むし</sup>虫かごを<sup>ひと</sup>一つ<sup>も</sup>持ってきて、  
<sup>りょうしん</sup>両親の<sup>まえ</sup>前に<sup>さ</sup>差し<sup>だ</sup>出しました。

